

『切り紙』

高野山では寺院や商店、一般家庭まで、建物の中のあちこちで切り紙の奉書がかけてあります。それを見て「どういった意味があるのですか?」問われる方も多いようですが、

あるのを目にすることができるます。それを見て「どういった意味があるのですか?」問い合わせる方も多いようですが、

これは宝来(ほうらい)というしめ縄の代わりとなる縁起物の切り紙です。

お大師さまが中国に渡つて修行されていた804年にはすでにこうした切り紙の文化があり、それを習得されたといわれています。中国ではこの切り紙は剪紙(せんし)と呼ばれ、2009年に無形文化

遺産となっています。伝統的な民間芸術の切り紙細工の図案には縁起の良いものが使われていて、赤い紙をハサミで切り出し作られます。赤は破邪・招福などの力があるとされ、大変縁起の良い色とされており、そこには人々の生活の安全や願いの成就への祈りが込められています。

そしてこの宝来については、それを伝える書き物がほとんど残されておらず、昭和49年に出版された書物の中にも、

宝来についての歴史を調べる方法がないと記されています。

現在は高野山を代表するお土産のひとつ名物となっており

方法がないと記されています。

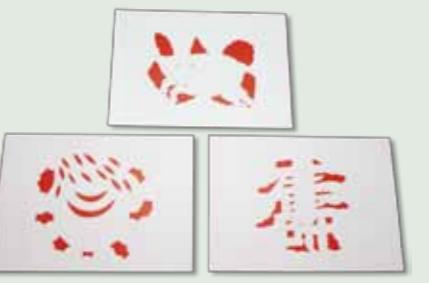
宝来についての歴史を調べる方法がないと記されています。

現在は高野山を代表するお土産のひとつ名物となっており

方法がないと記されています。

宝来についての歴史を調べる方法がないと記されています。

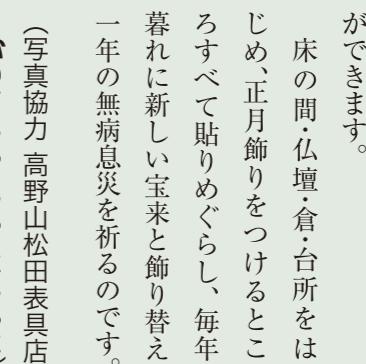
現在は高野山を代表するお土産のひとつ名物となっており



種類は干支の他宝珠・寿などがあります



型紙の通り丁寧に切り抜いていきます



来年の干支(イノシシ)が完成です

『献木について』 献木一口 2,000円 【記念品のご案内】

- 1口(2,000円)
五色腕輪念珠1連
- 5口(10,000円)
高野靈木カレンダー1本か、五色腕輪念珠5連どちらかを選択していただけます。



高野靈木を使用した
干支カレンダーを作成しております
〈限定 1,000本〉

販売価格
3,500円
+送料



高野靈木 五色腕輪念珠

高野靈木と五色の靈玉により、腕輪念珠を作成いたしました。

お問い合わせ

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132 金剛峯寺 山林部
TEL.0736-56-2016(直) FAX.0736-56-4640
E-mail sanrinka@koyasan.or.jp
※次号から会報の送付を停止する場合は、お手数ですがご一報ください。

会報バックナンバーは、
こちら(金剛峯寺HP(山林部))
からご覧いただけます。



生きている天空の聖地 高野山
(YouTube)



『献木』お振込先

振替用紙をご送付致しますので、山林部までご連絡下さい。
郵便振替口座:大阪 00930-6-61758
ゆうちょ銀行:〇九九支店 当0061758
加入者名:宗教法人 金剛峯寺山林部

共利群生の もりをめざして

2018
第14号

FREE
PAPER

共利群生のもりをめざして 2018 第14号



御影堂の周囲には、火災の際に建物の屋根の高さまで放水される防火設備(ドレンジャー)があります

－ご挨拶－

御影堂には雪がよく似合います。

うっすらと積もった初雪が、ゆるやかな傾斜の檜皮屋根に舞う様子は言葉では言い表せない上品な靈気を感じさせてくれます。
奥之院御廟と御影堂は、弘法大師信仰の二大聖地として古くから多くの信仰をあつめてきました。お大師さまは御入定になるまで御影堂に如意輪観音を安置し、常に念誦されておられたので当時は念誦堂、持仏堂または御庵室と呼ばれていました。御入定されてからは真如親王の御筆で大師自ら入眼されたと伝えられる御影が内々陣に安置されたため、御影堂と呼ばれるようになりました。

このお大師さまの御影は入定大師と呼ばれるスタイルのもので、椅子状の壮座に架して右手に五鈷杵、左手に数珠を持たれたお姿であり、現在の最も一般的な弘法大師御影の起源がここにあります。

多くの皆さまが御影堂にお参りいただき、この地で至心の祈りを捧げた弘法大師を初めとする多くの人々のあたたかい気持ちに触れていただけることを願ってやみません。

総本山金剛峯寺 山林部長 山口文章



高野山の豊かな森を後世に



